

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価の調査項目です )

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「自分らしく最後まで」「新しい家族」2つの理念を掲げ、ご入居者の生活を支えていけるようサービスに努めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・各ホームに掲示をしており、会議、ミーティングなどの際に全職員で唱和することで、常に念頭におき、日々、意識して取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・ホーム内、見やすいところへ掲示。入居案内の資料にも記載しており見学に来られた際に説明している。 ・家族面談、運営推進会議などでも説明し、地域の方、ご家族へホームの考えを理解していただくよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・毎月、通信を入居者と一緒に配布。 ・毎月、地域交流行事を行い地域の方、子供たちと交流を持っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・毎月1回地域のリサイクルボックスを担当させてもらっている。 ・地域の防災訓練・公民館行事・地域清掃・バスハイクなどに参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・介護教室を開き、支援できる事があればと取り組み中。 ・民生委員さんより情報をいただきながら地域の方と交流できる場が作れるよう取り組んでいる。		・今後も介護教室、介護相談などを継続し、地域の方へ情報発信を行っていきけるよう取り組んでいく。 ・地域で行われているふれあいサロンへ参加させていただく。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・評価の意義を説明、理解し、全職員で自己評価を行なっている。 また、今までの評価を定期的に見直し改善、継続に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回、ホームにて運営推進会議を開催しており、ホームの状況、地域交流の様子などを報告している。会議では意見もいただき、いただいた意見に対する取り組みの報告も行なっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・行事の案内や研修生、中学生福祉体験学習などの受け入れに協力し連携を図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修などに参加し、ホームでの勉強会を行っている。 ・入居の際にご家族へ説明し、必要に応じ家族面談などでも再度、説明を行い支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修に参加し、その内容を報告している。 ・虐待に繋がりそうなことを会議、ミーティング、申し送りなどで話し合い、虐待防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・実際にホーム内の雰囲気などを見ていただいたり、ホームの状況をお伝えしたりすることで安心に繋がるよう対応を行っている。疑問点についても、その都度、説明を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご入居者が遠慮せず意見、不満、苦情を言えるような環境作りを行っている。 ・苦情窓口として、施設の窓口、公的窓口を重要事項の中に記載し説明している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月の通信でお知らせしている。 ・ご家族の面会時に報告させてもらっている。 ・状態に応じて電話などで報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族面談の時にアンケート用紙を書いていただき意見をいただくようにしている。 ・苦情の窓口として施設内、公的窓口を重要事項の中に記載し、説明している。		・「ドキシート」(苦情の芽)に書き出し、それらが繰り返される事のないよう取り組んでいる。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月のミーティング、会議などで意見や提案をしてもらっている。また、職員それぞれが委員会に属しており、委員会活動を通して意見、提案をもらっている。 ・定期的に個人面談を行い、個人的に話しをする機会を作っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・3人体制を基本としているが、必要に応じて4人体制など勤務体制を変えている。 ・他階の状況把握にも努め全体で対応できるよう体制を整え、緊急時にも対応できるよう職員間で連携をとっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・ご入居者の状況により説明を行っている。移動の場合は、お互いがホームを行き来したり、手紙を書くなどして安心に繋げている。 ・離職した職員へも、行事の際に声をかけるなど交流がなくなるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>・募集に際しては、性別、年齢、経験、資格などを理由に採用対象より排除することはない。 ・職員一人一人が目標を立て、日々、取り組んでいる。定期的に自己評価を行い、リーダー、管理者などによる面談を行い話し機会を作り、個々に合わせたスキルアップに向け体制が整っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>・会議、ミーティング、申し送りなどで日頃から話している。 ・外部の研修や内部での研修などに参加し学ぶ機会も作っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・外部、内部の研修、ホーム内での勉強会などに参加できる機会を作っている。 ・自社がスクール運営をしているため、働きながら資格取得できるよう勤務体制を整え支援している。</p>		<p>・キャリアラダーシステムを導入に向け取り組み中。それぞれがコースを選ぶことで目標に合わせたスキルアップ研修に取り組んでいく。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・他事業所の研修に参加したり、交換研修なども行なっている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・定期的に職員面談を行ない職員と話す機会を作っている。また、日頃から声をかけるなど話しやすい環境作りに取り組んでいる。 ・不定休であるため、出来る限り個人の予定に配慮したシフト作りを行なっている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・把握に努めると共に、自己評価、個人面談を基に必要に応じた育成、支援を行いキャリアアップに繋げている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居前にご本人に面会させていただいたり、見学の機会を作っている。 ・入居前に、体験入居、ショートステイを利用いただき、ご本人の話しを聴く機会を多く作り、安心していただける関係作りに努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居に至るまでの過程の中で相談、話しを聴く機会を作り、不安の軽減や求めを受け止め対応を行なっている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人、ご家族の求めに応じ、職員間で話し合い検討している。必要に応じ、他のサービス利用の支援を行なっている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・いつでも施設を見学していただける体制を整え、ホームの様子を実際に見ていただき説明を行なっている。 ・いきなり本入居ではなく、体験入居、ショートステイを通してご本人、ご家族と相談しながら入居に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・理念にも掲げているように新しい家族として介護している・介護されているという関係ではなく、お互い様である関係を築いていきその中で喜怒哀楽も共有していつている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・ご入居者の日々の生活を報告していく中で、職員・ご家族一緒になって喜び、悲しみを共有し一緒に支えていけるよう取り組んでいる。家族会行事などに参加していただく機会も作っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面会時に日頃の状況を報告し、その状況に応じて職員が加わり話しをしている。その事で場が和んでいる。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご利用者に馴染みのある方から電話を頂くことがあるがご利用者が難聴などで対応が難しいため代わりに職員が対応させていただき関係が途切れないよう支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・食事・ティータイム・行事の時など利用者同士の関係を把握し、席替えなどしている。リビングで過ごす時間を設け、利用者同士の関わり合いを提供している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・年賀状、暑中見舞いなど季節の挨拶を行なっている。行事などの案内も行い参加していただくことで継続的に交流が履かれている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・その時々での希望に応じている。 ・ミーティングや毎日の申し送りの中で職員同士情報を共有し、お一人お一人の立場に立ち、思いなどを話し検討している。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・日々の生活での会話から、情報を知り得ている。 ・御本人、ご家族などからの情報を基にこれまでの生活により近い環境で生活していただけるよう努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日々の生活状況を記録に残し、職員間での把握に努めている。 ・ミーティング、申し送りなどでも情報交換を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・御本人やご家族に生活に対する希望や要望など意見を尋ねている。 ・サービス担当者会議で職員間で意見を出し合い、介護計画につなげている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・状況に応じたプランとなるよう見直しを行ない、評価、変更を行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の状況や介護計画の実践状況を記録に残し職員間で共有すると共に、毎日の申し送りの時などに気づいたことを報告しあい介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・3ユニットあるため、他階への支援に行っている。 ・2階での入浴が困難な方は、1階の介護浴槽を利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・2ヶ月に1回運営推進会議に民生委員、地域の方に参加いただき協力をいただいている。 ・消防の立ち会いの下避難訓練を行ったり、単独外出などあった際すぐに対応していただけるよう日頃から地域、警察の方に協力をお願いしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・見学に来ていただいたり、情報交換を行いながら協力をいただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・2ヶ月に1回の運営推進会議に参加していただき協力をいただいている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前からかかりつけ医がある方は入居後も利用を続けていただけるようホームで状況など報告し支援している。 ・地域の医療機関との連携を図っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・受診の際に相談し、先生より指示、助言をいただいている。 ・状況に応じて受診の際に職員が付き添い近況報告など行い、適切な治療を受けられるよう支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・往診、受診の際に日々の状況を報告し、相談・助言をいただきながら支援を行なっている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院中も出来る限り職員が面会に行き状況把握に努めている。 ・ご入居者の状況によりご家族、病院と話し合いの場を作り検討している。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・家族面談などの際に話しをさせていただいている。また、入院中など状況に応じて医師も含め話し合いの場を作り検討している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・ご家族、かかりつけ医、ホームと話し合いの場を作り、御本人にとって良い暮らしを送られるよう支援している。 ・他ユニットとも情報を共有し、全体で協力体制がとれるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・住み替えるときには情報提供を行なっている。 ・家族、ホーム、本人に関わるケア関係者で十分な話し合いを持つよう勤め実施している。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・一人一人に合った言葉かけや対応を行なっている。 ・個人情報の取扱いにも注意をもちあっている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・まず、ご本人の希望を伺ったうえで行動に移している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・1日の流れは決まっているが、入居者の希望などに添えるよう支援している。 ・毎月1回のミーティングで入居者の気持ちに添ったケアができるよう話し合い実行している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・1ヶ月に一度、訪問理美容に来られるので希望された方は整容してもらっている。 ・マニキュアや髪留めなどオシャレをして喜んでもらっている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理が出来る利用者と一緒に食事の支度をしている。出来ない方でも味見やちょっとした下拵えなど行なってもらっている。 ・ご入居者と一緒に職員も食事をし、会話、音楽などを取り入れながら楽しい雰囲気作りを行なっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・お一人お一人の好みの把握に努め、出来る限り希望された時や状況に合わせ提供している。 ・気軽に好みの物を購入していただけるよう事務所内のリフレッシュBOXも活用し楽しんでいただいている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・一人一人の排泄の時間を把握し、その方に合わせてトイレ誘導を行なっている。 ・オムツなどがその方に適したものであるかどうかを日頃から、職員間で検討している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・職員が入浴時間を決めてしまうのではなく、ご入居者の希望などを聞きながら支援を行なっている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・お一人お一人の状況把握に努め、その方に適した休息時間を考えながら支援している。 ・ご入居者の状況に合わせ、ベッドではなく布団で休んでいただくなど、その時の状況に合わせ対応を変えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・お一人お一人が得意とすることを日課として日々役割を持って生活できるよう支援している。 ・それぞれが好まれる楽しみや気晴らしが出来るよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個々の力量に応じて買い物の際に財布を持っていただき、支払いを行なっていただいている。 ・金銭管理が難しい方には、買い物の際に小額入れた財布を持っていただき、買い物する喜びを感じていただいている。"		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・庭に出たり、散歩を希望される場合は事業所周辺、公園に出かけたりしている。 ・玄関に施錠をせず、自由に入出入りできる環境作りを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・他ユニットのご入居者と一緒に出かける機会を作っている。 ご入居者と話し合いながら計画をたて、ご家族へ声かけを行い、可能であれば参加していただいている。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙などでご家族とやりとりをしていただいている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・ご家族、ご友人へは、いつでも訪問していただけるよう、日頃よりお伝えしている。来られた際は、一緒にお茶や食事を楽しんでいただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・抑制防止委員会を設置しており、月一回のミーティング時に日々の生活の中でご入居者に対して抑制が行なわれていないか話し合い防止に努めている。 ・言葉・心の抑制に対しても話し合いを行なっている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・鍵をかけることが身体、心の抑制に繋がることを全職員が理解すると同時に、鍵をかけないことでのリスクを話し合い、事故が起こらないよう取り組んでいる。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・常時、所在確認し、落ち着かれていない時は、職員同士で情報共有し、より添い共に行動している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・ヒヤリ・ドキシートを活用し、事故・感染症・苦情など、予測できる危険と対応について全職員が取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・職員がそれぞれ研修などに参加し学んでいる。ミーティングなどの際に事故について話し合い、事故防止に努めている。 ・ヒヤリシートを作成し、大きな事故になる前に小さなことに気付くようシートを活用。職員間で情報を共有し、話し合い取り組んでいる。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・定期的に急変時の対応など全職員が対応できるよう勉強会を行なっている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年に2回の部分訓練と総合訓練と災害に対する訓練を行なっている。 ・地域の方にも訓練に参加していただけるよう呼びかけを行なっている。		・近隣と関係を密にし、協力していただける体制作りを引き続き行っていく。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・ご家族の面会時や、家族面談の際のご本人の状態を報告している。今後の起こりえるリスクに対しても伝えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・体調の変化があった場合は、すぐにバイタル測定を施行し、他職員にも報告している。 ・異常があれば、かかりつけ医に連絡を行なっている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・毎月のミーティングにて個人の内服薬についての内容など再確認している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排泄表などをもとに排便状況の把握に努め、食物繊維の多い食事、水分提供などを行なっている。 ・便秘解消の為に寒天ゼリーの提供を行なっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、口腔ケアを行ない支援している。 ・歯科医院よりアドバイスをいただいている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・医師と相談をしながら、食事・水分を提供している。 ・不足しがちな栄養素などを意識し、バランスの崩れた食事提供を心がけている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・出勤時、うがい・手洗いをし、体温を測り、必要に応じてマスクを着用している。 ・研修に参加しながら、リスク委員を中心に感染症予防に努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理器具などの消毒を行なっている。 ・賞味期限には十分に注意し、気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・庭に、花や野菜を植えたりしている。 ・ホーム内には、花を飾っている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家具の配置替えを行なったり、直射日光が入らぬようカーテン・ブラインドで調整など行なっている。 ・花瓶に季節の花を活け、テーブルに飾っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブル席・ソファを用意し、ご利用者のお好きな場所で過ごしていただけるよう配慮し、声かけを行なっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時は、もちろんのこと入居された後でも、ご家族と相談し家具や調度品など、持って来ていただいている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・居室にいらっしゃらない時は、窓を開け換気を行っている。 ・エアコンを設置し、室温調節を行なっている。 ・室温計を活用し、自己判断だけで行わないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム内では、段差をなくし手すりを設置し、自由に歩行していただいている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・スタッフも一緒に行動し、事前の声かけや説明を行なうことで、混乱、失敗を防ぐようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・苑庭での茶会・バーベキュー大会、家庭菜園・花壇で種まきや収穫など、楽しい活動を提供している。 ・ベランダにプランターを置き、花を植え水やりを日課として楽しんでもらっている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
<b>. サービスの成果に関する項目</b>			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
		↓	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない